

参議院議員 上田きよしレポート

令和3年、新年も昨年以来の新型コロナウイルスの第3波ともいうべき状況下にあります。

昨年度のコロナ禍によって日本並びに世界の経済が収縮しています。各国政府による大型投資によって本年はV型回復の状況と評価が明らかになるでしょう。

それにしてもコロナ対策でのアベノマスクといい、GOTOキャンペーンといい、政府のチグハグぶりは日本の劣化を見るようです。

安倍政権の7年8ヶ月を総括すると、確かに7年以上の宰相としての存在感は個人として世界にアピールされました。しかし、外交的勝利や成果というのは見えません。日米同盟の深化ともいえますが、どちらかといえば過剰同調でしょう。

拉致問題は一步も進まず、北方領土問題は28回ブーチンと会ったといっても後退局面しか見えません。環境問題や軍縮での日本のイニシアチブはありません。力の空白は紛争の要因といえます。ますます強大・強権化する中国への対



応、米中対立の中での日本の立つ位置の困難さ、ロシア・韓国・北朝鮮とどう向き合うか、まさに与野党を超えた英知を結集しなければ

新緑風会に所属!! 参議院予算委員会集中審議(TV)登場!

上田きよしはさる10月26日から12月5日までの臨時国会にあたり完全無所属から参院の良識と言われた新緑風会に所属しました。会派名は「国民民主党・新緑風会」の共同会派(計15名)です。

ばなりません。英知を結集した国家戦略を策定したら、官民を問わず、日本全体で取り組むことが必要です。

それにしても昨年の予算委員会集中審議(TV入り)で指摘しましたように日本の基礎体力が落ちていきます。安倍政権下のGDPの伸びは年率1%を切っています。賃金も一九九七年がピークで、低賃金層が増加しています。

所得が伸びないので消費も弱く、日本経済の6割を占める国民消費の弱さが日本経済の弱さに連動しているのです。

今、日本が取り組むことは当面のコロナ対策と同時に、中央と地方の財源及び富の再配分を断行し、教育科学を振興し、再び強い競争力のある日本を再生することです。

そのための視点は安全保障や防災を踏まえ、豊かさを実現する産業から国民の命を守り、幸福をもたらす産業を意識して誘導することが必要です。

参議院議員 上田清司

No.80号
発行 清友会
朝霞市東弁財3-13-6 207
TEL 048-466-7566
FAX 048-463-6138
◎ホームページアドレス
http://ueda-kiyoshi.com/
◎E-mail ueda@aya.or.jp

清友会新年総会中止

恒例の清友会新年総会はコロナ禍を受け中止とすることとしました。しかるべき時期に新年総会に代わる国政報告会(小規模分散型)など企画しております。事情をご理解ください。



白岡市長選挙ふじい栄一郎候補応援
ふじい栄一郎氏 圧勝



笠ひろふみ衆議院議員政経懇話会
【新型コロナと日本の展望】



フードテック議員連盟勉強会



ガスワングループ社員研修会
「事実と異端に学ぼう」



越戸川視察



写真家山岸伸氏撮影「瞬間の顔」にも登場

○臨時国会(10月26日~12月5日)質疑

- ・11月11日 財政金融委員会理事会
- ・11月19日 財政金融委員会「大臣所信に対する質疑」
- ・11月24日 財政金融委員会「日銀報告に対する質疑」
- ・11月25日 予算委員会「集中審議」
- ・11月25日 行政監視委員会理事会
- ・11月30日 行政監視委員会理事会
- ・12月1日 財政金融委員会「財政及び金融等に関する調査」
- ・12月4日 国際経済・外交に関する調査会

二宮金次郎の報徳思想は日本を代表する多くの経営者・実業家へ影響を与え続けている
新一万円札の顔・日本資本主義の父、渋沢栄一が深く尊敬

映画「二宮金次郎」

あなたの知らない二宮金次郎が初めて完全映画化!



全国各地の市民ホール・
公民館等の各施設で上映!

全国津々浦々に
「二宮金次郎」の力を届けます!

皆様の町や村でも本格的な上映ができます。2019年は全国100箇所以上で開催されました。詳しくはHPまで。
URL <https://ninomiyakinjiro.com>

映画二宮金次郎製作委員会

〒150-0011 東京都渋谷区東1-11-3 鷹橋ビル2階

携帯 090-7813-5212 (担当:武田)

上田きよしプロフィール

- 昭和23年九州福岡県生まれ。
- 法政大学法学部卒、早稲田大学大学院政治学研究所修了。
- 新自由クラブ立党に参画、同党政策委員、全国青年局長。政策科学研究所政策委員。1980年新自由クラブより衆議院議員選挙出馬4連敗するが不屈の闘志で5度目の1993年初当選、以後3期連続当選。衆議院議員2期目は小選挙区選出300人中、議員立法・質疑回数1位。3期目選挙直前、小泉純一郎(当時、総理)をして「俺は誰が相手でも勝つ自信はあるが、上田清司だけはこ免さうむ」といわしめた。「選挙の鉄人」という異名もある。また、平成15年2月、塩川こと塩川大蔵大臣の「母屋でお粥をすすうという特別が離れでスキヤキを食べていた」という特別が離れ例えは、上田清司代議士の質疑に共感して答弁した有名なセリフである。
- 平成15年8月、民主党を離党し、無所属で知事選に出馬、2位に約ダブルスコアで当選。
- 平成19年、23年、27年と4期連続当選。
- この間、総務省顧問、拓殖大学大学院客員教授、内閣地域主権戦略会議委員、全国知事会東日本大震災復興協力本部長、全国知事会会長など歴任。
- 現在、参議院議員。

《参議院予算委員会集中審議》

「菅総理との質疑議事録のみ抜粋」



ボードにもございますけれども、（資料提示）実質GDP及びその成長率の推移を資料でお出しさせていたいております。確かに、バブル以降徐々にGDPの総額が増えて、五百五十兆、五百五十二兆まで来ておるところでございます。しかし、新三本の矢の、二一年までに、まあ二一年頃までに六百兆にしたいという公約からすると、そこには至っていない。一番問題なのは、成長率がこの一％のところで上がったりがったりしているんです、この七年八か月。つまり、平均して〇・九％しか成長していないと。もうこれで本当に最高の状態を実現したと言えるのかと。

これも国際比較で見えていくところなんだろうということで別のグラフを用意いたしました。これは大分県選出の吉良州司衆議院議員が作成した大変すばらしいデータでございます。この折れ線グラフをこう見ても分かりづらいので、この棒グラフで五年置きのGDPの推移を各国別に見てみますと、日本を除く各国は全部右肩上がりですけども、日本だけがほぼ平行の状態であります。

まさに、GDPはドルベースで見たときにほとんど日本は増えていない、各国は右上がりだと、こういう状態であるわけですので、これをもって最高の状態を実現したところというような表現はまさに

に役所の作文であって、菅総理の考え方と違うんじゃないかと私は期待しているんですが、いかがでしょうか。

○内閣総理大臣（菅義偉君） これは私自身が実際そう思っていたことです。

私ども、政権交代をして安倍政権になって、アベノミクスという三本の矢、ここからこの経済、スタートをさせました。

まず、当時の状況というのは、有効求人倍率というのは〇・八幾つでした。日本全国の中で一倍を超えていたのが八か所しかなかったです。そこから、昨年、このコロナが来る前までは、まさに全国どこへ行っても働きたいところで働くことができる、一・七倍ぐらい、六、七倍とか、それぐらいになりました。高校を卒業しても必ず就職できる、そういう状況をまずつくらせていただいたということです。

それと、税収もバブルを超えて最高のところまで来たんです、税収。そして、GDPも名目、実質とも過去最大。そして、新しく雇用を、差引きですよね、辞められる方もいますから、年々、差引き四百万人増やすことができました。

そして、さらに私自身うれしかったのは地方の地価です。二十七年間ずっと下がって放しでした。もう上がらないだろうと言わ

れた地方の地価が二十七年ぶりに上向きになったんです。

ですから、私、そのような表現をさせていただいたということですよ。今、上田委員から指摘、海外との比較等も指摘をされましたけれども、日本の実態とすれば、この約八年の間にそういうこと、客観的な形でGDPもそういう状況になってきたということで私、そのような表現、私がいしました。

○上田清司君 総理、有効求人倍率は、私ども団塊の世代がどかと二百六十万人組、二百七十万人組がぼんぼん出ていきます。百万人組が入ってきますので、どこどこと有効求人倍率が上がっていくのは当たり前なんです、これは。

そしてまた、雇用の部分も非正規が多くなってきています。もちろん、女性と高齢者がたくさん入っているから当然非正規も多いんだというふうに言われるかもしれませんが。

一歩譲って、じゃ、今度賃金ベールで見たらどうなってますか。これを御覧ください。実質賃金が折れ線グラフで名目賃金が棒グラフです。九七年、一九九七年を境にずっと下がって放しなんです。民の懐具合から見れば、九七年がピークですと下がって放しで、アベノミクスでちょっと上がりまして、アベノミクスで少し上がりましたと。でも、少し上



いかがなものかというふうに私は思いますし、財政金融委員会で麻生財務大臣にこうした論点から少し質疑をさせていただきまして、一定程度控えめながら同調していただいたような感じは私はしております。これはもう細かく議事録を申し上げます。

もう一点だけ御質疑させていただきたいと思えます。コロナ対策でございます。

国防には三防という三つの守りがあると思っております。防衛の防、そしてまた防災の防、そして防疫の防、疫病を防ぐという、この三つの私は国防があると思っていますが、この防疫に関して、御案内のとおり、現在の新型コロナウィルスはいわゆるバイオセーフティーレベル3（BSL3）、地方の衛生研究所や保健所でも検査や処理ができる案件であります。致死率七〇％のエボラ出血熱のようなまさにバイオセーフティーレベル4、このレベルはほ

がりましたというのが最高の状態ということが言えるのかなというふうに私は思います。

総理、それだけではありません。二人以上の勤労世帯の可処分所得、月額ベースで、ピークの一九九七年が四十九万七千円で、二〇一九年は四十七万七千円。年間でいったら、二万ずつです。二十万少ない。それから、百万円刻みで見えていくと、一番多い層は、一九九七年、これは三百万から四百万の層なんです。ところが、今は一番多い層が二百万から三百万、一番多い国民の平均的な層が百万円下がっているんですね。

仁徳天皇の時代から、かまごから煙が上がっているかと、民の懐はしっかりといるかというところがまさに経済がいかか悪いかというところでありまして、地価が上がったからいいんだというのは不動産屋の世界でしょう。私は必ずしもそんなふうに思いません。賃金から見たとときの日本の状態も、国際比較で見えていくと、アメリカ力は約二倍以上上がっているんです。ユーロ圏でも一七〇、つまり一・七倍。日本は逆に下がっているんです、現実には。

したがって、どうしても私には、民の懐から見ても、実態から見ても、最高の状態というのは言い過ぎではないかと。少し良くなってきたという、これは事実だと思えます。しかし、最高の状態というのは、どこを基準にするかといえは、私は、少なくともバブル以降、一九九七年の頃、ずっと良かったわけですから、そういう意味で違っ

とのできる施設であります。我が国では、現在、委員から御指摘ありました国立感染症研究所に設置をされておりますが、実は地元の御理解をいただくまで長い年月を要した上で、平成二十七年にようやく理解しています。

仮に一般感染症が疑われる患者が発生した場合にはその検査は国立感染症研究所で行うことになるために、自動車、防災ヘリコプター、新幹線などを活用し速やかに検体を搬送し、また速やかに検査が行われる体制の整備を構築しているところでもあります。

いずれにしても、今委員から御指摘いただきましたそうした点も含めて、感染症危機管理体制の強化のために必要な対策というものを検討していきたいと思えます。



んじゃないかというふうに思いますが、再度お伺いしたいと思えます。

○内閣総理大臣（菅義偉君） まず、雇用を増やすことというのは大事なことじゃないでしょうか。委員から御指摘ありましたけど、まさに団塊の世代、我々の世代がどおんと落ちる中であってプラスマイナス四百万人雇用が増えているということは、これ事実です。働く場所ができたということであり

ます。そして、正規雇用も一倍を超えていました。有効求人倍率、当時、過去、私ども政権交代前ははるかに、〇・六、七ぐらいだった、たしか六前後だったと思いますけど、それも一を超えています。まず働く場所を確保するということとは大事だったというふうに思えます。

それと、国民みんなの稼ぎの総額で見ますと、総雇用者所得、これも名目、実質でも増加が続いているということも事実じゃないでしょうか。

私自身、九六年に国会に入りました。その当時と比較をして、私自身は、当時から地方の地価が下がっていましたから、やはり地方の地価が上がるということは、インバウンドとかあるいは農業の輸出、そうしたことで地方でもそういう価値ができてきたことということじゃなかったでしょうか。

私はそういう解釈をいたしまして、自分自身で、この八年間の間で、安倍政権八年間の間でこうしたことをできたということこそ素直な表現でさせていただいたという